

令和元年度第1回鳥取市政懇話会 議事概要（ポイント）

【市役所新本庁舎での災害対策について】

- 段ボールベッドは備蓄については、鳥取県が段ボール工業組合と協定を結んでおり、避難生活が長期にわたる大規模災害の場合、協定している業者からいち早く鳥取県内に供給できる仕組みになっている。
- 災害時、端末については、避難所ごとに避難所班の職員がいち早く駆けつけるので、その職員に災害対策本部室のシステムと連携できる端末を携行してもらう。
- ドローンについては研究中である。技術の進歩が日進月歩で、強風や雨の中で飛ぶものも開発されている。非常に高価でもあるため、技術の開発を見定めてから見極めようと思っている。
- 最初の時点でどのように避難所を開設するのかなど予めマニュアル化するなど素案を作って地域のみなさんにお出しし、各地区で訓練をして評価していただき、最終的なものを今年度末に完成させようということも進めている。
- 備蓄品が人口の1%程度しか届かなかつたのは、時系列ごとにプッシュ型で送り込んでいくので初動がなかなか難しかったところがある。時間経過と共にプッシュ型で追加していく体制で、災害時にはしっかりやっていきたいと思っている。
- 実際に災害が起こった全国各地でも、避難になかなか結び向かないことが現実には起きている。正常性バイアスと言って自分だけは災害の被害に合わない・安全だという心理が災害時には起こりやすい。これを打破し、避難を決断するために我々行政は情報の伝達に切迫度・緊急度も持たせて伝えることに全力をあげないといけない。
- また、訓練の様子はつぶさにホームページに出している。自主防災会の皆さんにはしっかり見ていただき、未実施の地区においては、こういうふうに避難所を開設するのだというノウハウが伝わるように努めていきたい。
- 鳥取市では事業所向けではないが、防災リーダー、防災主導員の育成に努めており今鳥取市で700人近く登録している。事業所でもそういった取組が大事であるし、地域でも防災リーダーになれる人を育て、「自助・共助」の共助の力を高めていきたいと取り組んでいる。
- 水害は予め予想のつきやすい災害である。基本は水平避難と言って浸水域の外に出る避難が原則である。垂直避難より水平避難で早めに行動していただきたい。垂直避難でも命を守る行動であれば大切だと啓発している。
- 市としては災害時に气象台と民間会社の情報が違っていないか確認をしながらやっている。
- 可搬型ライブカメラは12台配備している。職員の安全性を確保しながら河川の水位を監視するという運用を考えているところである。
- 災害時を想定して、日頃から各方面と協定を厚く結ぶことが大事と感じる。
- 袋川は国の管理河川、大路川は県の管理河川だが、過去の災害の経験を生かして堤防の高さ・強度について、国・県は河川整備を進めてきている。今回、関東甲信越等の災害で学ばないといけないのは、堤防では守りきれない降雨量が多発しているのでそれに備える必要があるということである。

【庁舎移転に伴う中心市街地活性化について】

- 駅の北側は駅と商店街が分離されている。車で交通を遮断すれば歩行者は駅と商店街全体を回遊できる。安全な商店街を作ればよい。歩行者にとってはそういうニーズがある。
- 中心市街地はコンパクトシティとして生活のニーズには充実した町である。免許返納などもふまえると、今後高齢化になっていく中で生活しやすいのは中心市街地。若年層だけでなくむしろ高齢になった方がマンションを買って、中心市街地に住んで、公共交通機関を利用して、アクティブに生きていただきたい。
- 市役所が移転して大きなスペースに今駐車場だけ機能しているが、県庁も県民文化会館も市民会館も近いのにもったいない。市役所跡地を住宅地にすればよいという声も聞く。
- 若桜街道は国道を返上して自由にできたらよい。歩行者天国にすればよいと思う。
- 「賑わいの創出」という素晴らしい言葉があるが「賑わい」とは何か。本当の賑わいとは何か、用事が無い人がうろうろしている方が賑わいじゃないかという感じがする。用事が無い人たちにどうやって来てもらうかということも考えた方がよい。
- 魅力のある店が集積し、そこに人がたくさん来る、楽しめる場所、美味しい食べ物がある等色々な要素がある中で賑わいは作られていくと思う。商店街は努力しているが人口減の影響もありません。なかなか厳しい状況である。
- 賑わいの話だが、人が来ることは「人」だと思う。人が人に会いに来ること。どうやったら楽しんで帰ってもらえるか、一人ひとりが鳥取の魅力を伝えられる人になり、日本文化を伝えられる人になること。若者とかつての若者が手を組み、まず自分たちが楽しむこと。
- 鳥取市は大丸の方向から駅の間には横断歩道の設置を考えている。駅前の車の流れについては将来的な課題になるかと思う。中心市街地の中で人が滞留し、車もスムーズに移動できるかというところを研究していきたい。市は、空き店舗で新しい取組をされる方に融資を行う制度も行っている。やる気のある民間の方を応援し、賑わいの創出に取り組んでいく。
- 自転車をどこでも借りて乗り捨てできる取組については具体的には考えていないが、これからの時代は徒歩や自転車での回遊は大事。そういった取組も研究していきたい。
- 鳥取砂丘周辺では砂の美術館に年間50万人、砂丘に年間130万人くらいの観光客が訪れるが中心市街地にまで入ってこない。どう取り込んでいくのか。
- 砂丘や砂の美術館だけでなく中心市街地もいくつかの観光拠点ある。わらべ館、鳥取城跡も最大限生かしながら中心市街地にもたくさんの方に来ていただけるような取組をこれから今まさに進めていこうとしている。
- 観光コンベンション協会の取組、駅に観光案内所を365日開設し、鳥取砂丘への行き方など、様々なお知らせをしている。100円バスについて、わらべ館、仁風閣、やまびこ館の案内もしている。土日祝日はループ麒麟獅子の案内もしている。
- 第3期中心市街地活性化計画はハードからソフトに移行する仕組みを考えることではないか。人がいろいろと考えて、モノからコト、色々な行事をやって定番化して定着化して、安定してきたと理解をしている。観光商業に知恵を出さないといけない。市でもSQプロジェクトチームがあるので若い人のアイデアを生かしていくといいソフトが出てくるのではと期待している。
- やまびこ館とわらべ館は少し離れているが、中心市街地には、パレットとっとりを含め、そこにまとまった施設があるので、そこを上手にPRしていけばよい。本当に駅周辺が充実しているので、観光客のみならず市民がもっとPRしてくれれば大変うれしいなと思う。
- 鳥取の人口はじわじわ減少しているが世帯数はじわじわ増加している。世帯数が増えるということはマンションや戸建ての需要があるということ。